

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300462		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム いずんじま		
所在地	福岡県八女市川犬1025番地		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果確定日	平成22年9月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた立地条件を生かし、静かな落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送れるよう配慮しながらサービスを提供している。近くにある市立保育所・小学校等の子どもたちとの交流も年に数回行ない、子どもとも触れあえる環境作りを構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地は周りを茶畑や田畑に囲まれ、遮るものなく遥かに山々を眺められる平屋建ての建物になっている。中庭には2匹の親子の飼猫があり、小屋を作ったり毎回の餌やりと、入居者の方々と職員の心の余裕を知る事ができる。創立来、地域との交流に力を注ぎ、学童・園児の運動会や発表会での演目を再度、ホームで催してもらったり、子供たちの体験学習の為に社会資源の1つとしてホームを提供している。子供たちを通じて地域住民との交流へとつながり、法人主催の秋祭りには多くの出店や農作物の出品があり、地域一体となった催しになっている。余裕ある人員配置の中、職員はじっくりと個々の入居者に向き合った支援が行われていた。民生委員との連携も深く、軌道に乗りつつある運営推進会議を通して、非常時の連携体制の強化等、一層地域密着型サービスとしての役割が重要となってきているホームです。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と同じ空間で生活している中で、ゆっくりと流れる時間の中共に育んで行く生活を大事にしていきたいと思っている。新しく入った職員には浸透していないが今後努力していく。	創由来「一歩ずつ 共にはぐむ あたかな生活」「ゆとりの心と思いやり」という理念を掲げ、入居者の方々や職員・関係者にとっての日々の暮らしの望ましいあり方、また地域への思いを、機会あるごとに意識し、実践に結びつけるよう取り組んでいる。	開設時に作られた理念を、地域密着型サービスとしての現状にあわせて、再検討を予定している。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一度の祭り時には地域の方が多く訪れ、地域保育所、小学校児童も日常的に訪れている。	地域の小学校、保育所の学童・園児の運動会や発表会での演目を、再度、ホームで催していた。子供たちとの交流を機に地域住民との交流となり、法人主催の秋祭りには多くの出店や農作物の出品があり、地域の方も楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ敷地内で10年の実績の有るデイサービスセンターの職員の交流等も含めて勉強会・研修会を行なっている。町内会にも加入している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上につなげる事が出来るよう配慮している	地域代表者や民生委員(4名)・家族等の参加を得て、ホームの活動・状況報告が行われ出席者の意見を頂いている。地域代表より、防災について、消防署職員の会議への参加についての提案があり、次回会議に計画されている。また民生委員より、地域で生活に困窮されている方の対応について情報提供があり、話し合いが行われている。	地域拠点としての役割を果たすべく、活発な意見交換が行われている。現在、定期開催に向けての計画が立案され、実現に向けて取り組んでいる段階である。運営推進会議議事録の作成により、情報の共有への取り組みにも期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の窓口に行く時、運営推進会議等で行政担当者との交流を図っている。	介護保険申請や運営推進会議、介護保険事業者協議会等を通じて、連絡・報告等を行い、情報の共有を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	使用していない出入り口は防犯を兼ねて施錠しているが通常の出入り口は常に開放している。	法人内で「身体拘束について」の研修が行なわれている。施錠の弊害を鑑み、玄関は開放され、居室も外からの施錠はされていない。治療上点滴中も拘束が不要なように、職員が付き添っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を交え防止に努めている。内外の研修を通じ、今後も防止を努めていきたい。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の一名が利用している。施設内研修等で取り上げ職員全員に浸透するよう努力している。	現在、日常生活自立支援事業を活用している方がおり、内部研修に組み入れながら、職員全員の理解を深めていくよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、理解を求め交付している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情処理の説明を内外含め行なっているが今のところ無いために反映はしていない。	家族への連絡や報告が必要な場合、また家族との面談で得た情報等については、ホワイトボードや連絡ノートに記入し、申し送り等にて情報を共有している。家族の要望(折り紙・ドリル)を取り入れたり、また携帯メールを活用し、写真を添付して連絡することにより、家族からも好評を得ている。運営推進会議への家族の参加も増えてきている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で議題や今後行いたい研修などの意見を聞いて反映している	定例会議において、職員から建設的な意見や提案が出され、特に各行事やレクリエーションの担当者の発言には権限と責任があり、活発に運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り配慮している		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別で可否の結果を出す事は無い。応募者一人ひとりの能力で判断している。	職員の採用にあたっては、年齢・性別等を理由に排除することはない。面接時には、高齢者への接し方、心根の優しさ等について、重要視している。人員は1名増を確保し、ゆとりあるケアと職員の自己実現への権利や希望を保障されるよう配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実績なし	本年度研修計画には、倫理、プライバシー・接遇について・言葉使い等が盛り込まれている。ゆとりある人員配置の中で、「ゆとりの心と思いやり」と示された理念の実践に努めている。	

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画は無いが、段階に応じて職務の内容を考え、その都度内部研修を行なっている。能力に応じて外部レクリエーションの研修の機会等を作っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を助産したアセスメントシートを家族に記入してもらっている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅で困っていたことや不安に感じた事等の聞き取りを行ない、ホームでの生活に役立てる事が出来るよう聞き取りを行なっている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に家族はギリギリまで我慢をしてどうにかしたいと考えて追い込まれた状況で入居の相談に来る事が多い。それを踏まえて相談に乗るよう配慮している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを行なう上で家族の聞き取りが役に立つ事が多々あるので綿密な連絡を取るように配慮している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	家族の協力を得ながら、入居者一人ひとりの生活習慣や大切にされている事についての情報を収集している。例えば、馴染みの美容院を継続して利用できるよう支援している。	

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	他入居者との関わりが持て、共に共同生活 が営めるよう配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要が有る場合対応するように心がけてい る		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	努めている	独自のアセスメントシートを用い、家族からの 情報を大切に収集している。独居の方は、知 人や支援センターから情報を得ている。又 日々の記録には、本人が語った言葉をその まま記載し、希望や意向を押し測っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	アセスメントシートの情報や家族からの聞き 取りを重視している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日勤者・夜勤者の申し送りを綿密に行ない、 状況の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	現状に沿うよう心がけている。	介護計画作成にあたっては、アセスメント シートや日々の経過記録から情報収集され、 職員会議で検討されている。本人の意向や 家族の希望を踏まえ、本人を主語としたわか りやすい文言で作成されている。	計画の見直しにあたって、具体的にモニ タリング・評価された内容を記録に残して いく事が、より継続的な介護に結びつい ていくと考えます。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの為の記録を何種類か準備し、場 面場面にに応じて記入できるように考えてい る。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医はそのまま継続して頂いている。事業所として主治医とか良い関係が築けるよう配慮している。	かかりつけ医の往診・受診時には、必ず日頃から入居者と接している職員が立会っている。その際 診察に必要な心身の状況を分かりやすいようファイルして用意している。結果は家族に報告している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの主治医とは普段から看護師・受付等を通じ相談・報告を行ない、連携は取れている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	SWや主治医と連携を密にし、情報の交換に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の課題として取り組む必要がある	これまでに「看取り」への経緯はなかったが、今後の課題として受け止めている。終末期において、あくまでも本人・家族の意向が主であり、希望や要望に応じていきたいと考えている。	今後の重度化や終末期への支援に向けて、本人や家族の意向を踏まえ、また状況の変化毎に話し合いが行なわれ、お互いの認識を共有することが重要と考えます。書式の整備、職員の理解等、体制の整備に向けた取り組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心がけている		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等行っている	年2回の避難訓練が行なわれている。運営推進会議での提案もあり、消防署職員の会議への参加を得ることとなり、地域に向けた情報発信も行われる予定となっている。台風、その他非常時に備え、常備食・コンロ等を備蓄している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけている	声掛けする際の呼び名は、本人や家族に伺っておく。原則、姓で呼ぶ事にし、その後は入居者の好まれる呼び方をしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるよう心がけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により買い物に行き好みの洋服を購入し、身だしなみ気をつけている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状态的に可能な方にはそれぞれの役割の中手伝って頂いている	各自決まった席で、個人のペースで食事を摂っている。いりこの頭とり、もやしの根とりなど、楽しく出ることなどお願いしている。隣接するデイサービスの栄養士による献立となり、季節食・行事食等、献立が工夫されている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の計算の下食事を提供している		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の消毒・歯磨き等心がけている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	配慮し、支援を行なっている。	各居室にトイレが設置されている。排泄のサイクルを把握し、トイレ誘導・声かけを行ない、排泄の自立と継続を図っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携のもと予防に取り組んでいる		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	週に2～3回の入浴日の設定を行っているが、毎日入浴が可能なので、希望や体調に対応して入浴することができる。「四季の湯」を取り入れ、ゆっくりと温泉気分を楽しんでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠い時は居室にて昼寝をして頂いたり配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より全ての薬の説明をいただき薬科辞典も常備し、理解を深めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩等積極的に行っている。また、外出レクを通じて、四季を感じてもらったり普段は行かないような場所へも行けるようほぼ毎月企画立案を行なっている。</p>	<p>隣接するディサービスも含め敷地内は広く、周りの茶畑や遠山を眺めながら散歩を行っている。天候によってはホームを1周2周と巡回している。リフト車も活用しながら外出を企画し、写真が受付カウンターや壁に貼られ、来訪者を楽しませている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一部の入居者では自ら所持金を持ち自分の意思で使っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>全ての部屋に電話を引く事は可能。一部の入居者は行なっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>周りは畑や茶畑に囲まれた静かな地域で外部からの騒音等はない。</p>	<p>中庭を取り囲むよユニットがつながり、自然の採光が落ち着いた雰囲気を作っている。また空調設備が設置され、24時間新鮮な換気がなされている。壁には手作りの作品が飾られ、中庭には2匹の親子の猫がおり、季節ごとの草花と共に、小動物の気ままな動きも楽しんでいる。廊下のソファーや畳スペース等、くつろぎの場所がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う方同士が近くの席に座れるよう配慮したり、畳の部屋も有る。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から使い慣れた家具を持参してもらったりプライベートスペースとして住みやすくなるよう配慮している。</p>	<p>居室には、洗面・トイレや押入れ・クローゼットが設置されており、収納がよく、居室全体が個性に応じてレイアウトできるようになっている。ベットや畳に布団の方、また誕生日の写真を貼ったり、仏壇が置かれたり、入居前の環境に近い工夫がなされている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し、部屋を間違えたりしないように工夫している。</p>		